

創造的復興で 未来の発展へ

全国経済同友会によるIPPO IPPO NIPPONプロジェクトでは、2016年4月に発生した熊本地震の支援活動を展開している。6月10日には、小林喜光代表幹事はじめとする経済同友会幹部14名が熊本県を訪問した。その内容を報告する。



熊本県知事および熊本県教育長との懇談

創造的復興を未来の熊本の発展へつなげる

蒲島郁夫熊本県知事および宮尾千加子熊本県教育長との懇談では、小林代表幹事が「創造的復興に取り組んでいる熊本県に敬意を表したい。IPPO IPPO NIPPON プロジェクトでは、次世代人材育成に重点を置いた支援を行っており、今回の視察を通じて現在の熊本の状況をつぶさに把握して、今後の支援活動に役立てたい」と挨拶した。

これに対して蒲島知事は、「熊本地震から1年2カ月が過ぎ、震災の風化を危惧している。そのような中で、経済同友会の皆さんに足を運んでいただいたことを、大変うれしく、心強く思う」と感謝の言葉を述べた。また、「今回の地震は28時間以内に震度7の地震が2度起き、4,300回以上も余

震が続くなど対応が難しかった。復旧・復興にあたっては、被災者の痛みの最小化、創造的復興、それを熊本のさらなる発展につなげることの三つを原則に、住宅確保、仕事づくり、インフラ創造、空港や港湾の機能充実などに取り組んでいるところである。今回の地震で県民は多くのものを失ったが、同時にお互いの絆を強めるとともに、多くの支援に対する感謝の気持ちが生まれた。これを大切にしながら、復旧・復興を進めていきたい」と今後に向けた思いを語った。

一方、宮尾教育長からは、「今回の地震では多くの学校が被災した。復旧が進んだ学校がある半面、まだまだ時間がかかる学校もある。そうした状況下で、全国経済同友会によるIPPO IPPO NIPPONプロジェクトから、損壊した実習機材や教育設備の支援をいただいた。現状復旧であれば国からの支援で十分なのだが、『最新の技術を学ぶべき』という観点から、最新の設備をすぐに使える状態で設置していただいたことは、実にありがたい限りである。本日は、そうした機械や設備を子どもたちが感謝の気持ちで使っている様子を、ぜひ見ていただきたい」と述べるとともに、「私たち教育関係者は、引き続き日本の産業、世界の産業を支える人材の育成に全力を尽くしたい」と力強い決意を語った。

熊本視察メンバー

(役職は当時)

小林 喜光	代表幹事 (三菱ケミカルホールディングス 取締役会長)
志賀 俊之	副代表幹事/経営改革委員会 委員長 (日産自動車 取締役副会長)
隅 修三	副代表幹事/地方創生委員会 委員長 (東京海上ホールディングス 取締役会長)
馬田 一	副代表幹事/諮問委員会 委員長 (JFEホールディングス 相談役)
大八木成男	副代表幹事/憲法問題委員会 委員長(帝人 取締役会長)
木川 眞	副代表幹事/人口・労働問題委員会 委員長 (ヤマトホールディングス 取締役会長)
宮田 孝一	副代表幹事/民主主義・資本主義のあり方委員会 委員長 (三井住友銀行 取締役会長)
横尾 敬介	副代表幹事・専務理事/経済研究所 所長 広報戦略検討委員会 委員長
秋池 玲子	経済同友会2.0を实践推進するPT 委員長 (ポストコンサルティンググループシニア・パートナー&マネージング・ディレクター)
石村 和彦	環境・資源エネルギー委員会 委員長(旭硝子 取締役会長)
徳植 桂治	震災復興PT 委員長(太平洋セメント 相談役)
橋本 孝之	成長フロンティア開拓委員会 委員長 (日本アイ・ビー・エム 名誉相談役)
山添 茂	米州委員会 委員長(丸紅 取締役副社長執行役員)
岡野 貞彦	常務理事



蒲島知事と宮尾教育長を中心に、今後の復興に向けてさまざまな話が交わされた。会場には熊本県営業部長兼しあわせ部長の「くまモン」も駆けつけ、懇談に参加した

(左から 宮尾千加子教育長、蒲島郁夫知事)



熊本経済同友会との意見交換会

懸念材料を克服して着実な経済復興を

熊本経済同友会との意見交換会では、本松賢代表幹事が「皆さまからの支援に心から感謝を申し上げる。今後もぜひ復興の心の支えになっていただきたい」と述べた。また、竹内淳一郎常任幹事は、被災状況を紹介した上で、「経済面では着実に復興が進んでいるが、今後に向けての懸念点も多い。企業誘致などのさまざまな課題を皆さまの知恵を借りながら解決していきたい」と語った。



本松賢 熊本経済同友会代表幹事
(テレビ熊本取締役会長)



竹内淳一郎 常任幹事
(日本銀行熊本支店長)

復興を目指す熊本城

熊本地震によって、観光の目玉である熊本城も各所の石垣が崩れ、天守閣の瓦が落ちるなど、甚大な被害を受けた。熊本市では今後約20年をかけて熊本城全体の復旧を進める計画であり、現在、そのための作業が進められている。



熊本工業高校訪問

寄贈された最新機材で学ぶ生徒たち

熊本工業高校には、IPPO IPPO NIPPONプロジェクト熊本支援第1期活動で、電子顕微鏡、電子計算組織などが寄贈された。この日の訪問で経済同友会一行は、電子科で3Dプリンターなどの実習を、



一行を出迎えた
同校吹奏楽部のマーチング演奏

また材料技術科で電子顕微鏡の実習を見学した。生徒からは「大変な地震で実習機材が使えなくなり、一時はどうなるか不安だったが、最新の機材を導入していただき、充実した授業が受けられるようになった」と感謝の言葉が寄せられた。



上) 3年生の男子生徒たち。下) 寄贈した機材



益城町訪問

復興をさらに加速させ未来を切り開く



西村博則 益城町町長

視察の最後に行は特に大きな被害を受けた益城町を訪れ、西村博則町長と懇談を行った。小林代表幹事は、「今後に向けて、甚大な被害を受けた益城町の経験を共有し

たい」と述べた。

西村町長は、「震災当初、20名以上の方が亡くなり、1万6,000人が避難を余儀なくされた。それでも、ここまで復旧が進んだのは皆様のご支援のおかげであり感謝したい」と述べる一方で、「今でもさまざまな問題があり、特に人材不足は深刻だ。皆さんの力を借りながら復興をさらに加速させ、益城町の未来を切り開きたい」と抱負を語った。



1月11日より開始したIPPO IPPO NIPPON プロジェクトによる熊本支援第2期活動期間を10月31日(入金締め切り)まで延長しました。ぜひ、皆さまの温かいご支援をお願い申し上げます。

IPPO IPPO NIPPONプロジェクト 運営事務局

〒100-0005
東京都千代田区丸の内1-4-6 日本工業倶楽部別館5階
公益社団法人経済同友会 事務局内
Tel : 03-3284-0316 E-mail : ippo@doyukai.or.jp
https://www.doyukai.or.jp/ippo/activity_kumamoto/